

平成22年度
大学生の力を活用した集落活性化
調査委託事業報告書

~日本一安心して暮らせるところ：野行を目指して~

2011年3月31日

日本大学工学部
学術文化連合会
情報研究会
代表 室井美紀

目次

I. はじめて	3
1. 場所	4
2. 人口分布	4
II. 調査概要	5
1. 参加者の構成	5
2. 活動スケジュール	5
3. 調査結果	6
3.1 第一回訪問	6
3.2 第二回訪問	8
3.3 『かつらお自然の恵み感謝祭』参加	10
3.4 集落活性化県民討論会	10
III. 活性化の施策案	11
1. 「のゆき」体験ツアー	12
2. 「のゆきこの指とまれ」	14
IV. おわりに	18
V. 謝辞	18
VI. 参考資料	19

I. はじめに

私たちが地域活性化を手伝わせていただいた集落は、福島県の東に位置する葛尾村の野行地区というところでは、夏の気温はあまり高くなり、降水量も少なく、冬は乾燥気味で、降雪量も少なく、風も弱いため高地としては過ごしやすいところではあります。野行地区の人口は平成 22 年度 10 月時点で延べ 125 人で 50 歳以上が全体の約 58%を占めています。そして、20 年後には 50 歳以上が約 69%を占めると予測され、

これまでに、野行地区の皆様は将来に亘って安心・安全な生活を送るためのいろいろな施策に取り組んでこられています。私たちもこれまで学んできた情報通信技術を活用する施策をご提案し、その実行に参加させていただくことによって、野行地区の皆様と力を合わせて地域の活性化に寄与したいと考えています。

(1)場所



図1 葛尾村野行地区の位置

(2)人口分布

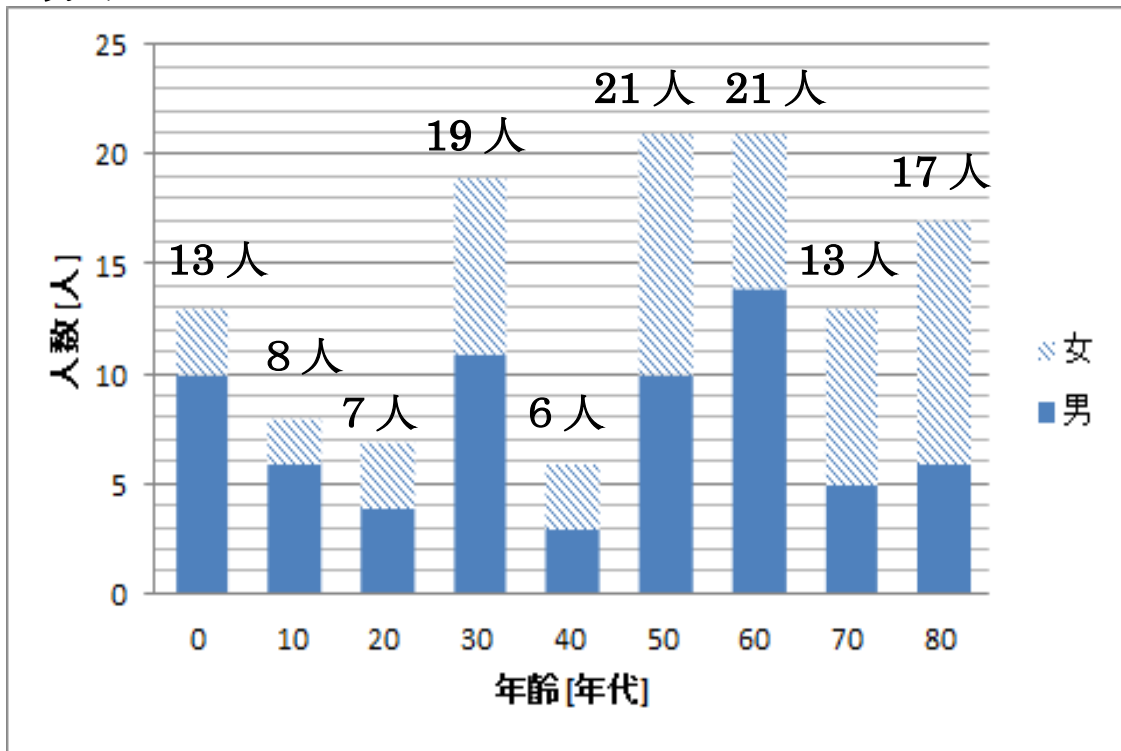


図2 平成22年10月1日現在の人口分布

II. 調査概要

1. 参加者の構成

項目	内容
サークル名	情報研究会
サークル代表者名	情報工学科 3年 室井美紀
調査実施者	室井美紀(3年)、大賀則幸(3年)、菅原大幹(3年)、奈良桂佑(2年)、富塚大輔(2年)、七海智恵子(2年)、鈴木裕大(2年)
指導教員名	情報工学科教授 武内惇
調査対象集落名	福島県双葉郡葛尾村野行集落
調査対象代表者名	葛尾村野行地区総務課長 金谷喜一

2. 活動スケジュール

日付	活動内容	備考
8月5日	大学生の力を活用した集落活性化事業に参加申請	正式に地域活性化へ着手
8月21日	先行調査	所在地の確認
8月27日～ 8月31日	活性化案進め方の検討	大学内で実施
9月12日 13日	第一回訪問 ・提案説明会議 ・戸別訪問調査	詳細は 3.1 章
9月18日～ 10月23日	提案内容の改善検討	大学内で実施
10月24日	第二回訪問 ・改善案説明会議 ・バーベキューによる親睦会 と意見聴取	詳細は 3.2 章
10月26日～ 10月29日	意見聴取の整理 提案内容の改善検討	大学内で実施
11月3日	『かつらお自然の恵み感謝祭』 に参加	詳細は 3.3 章
11月19日	集落活性化県民討論会報告	詳細は 3.4 章

3. 調査結果

3.1 第一回訪問

<提案説明会議：1日目 9月12日>

(1) 目的

本活動を開始するに当たり、直接お会いして我々の心意気を知っていただくこと、また、先行調査やこれまでに実施されてきた地域活性化の事例調査の結果を踏まえて、情報通信技術を活用して、将来に亘って継続し拡大可能な施策を提案したいと考えていることをおつたえることを目的とした説明会を開催しました。

(2) 内容 [参照…参考資料1、参考資料2、参考資料3]

- a. 農業体験
- b. 専用ホームページの開設

(3) 得られた情報

- ・小学生らを巻き込んだイベントは難しい
- ・体験用のスペースを提供しづらい
- ・シーベリーの収穫は後3年かかる

など

<戸別訪問調査：2日目 9月13日>

(1) 目的

野行地区地域活性化チーム（以下、活性化チーム）を3名構成の3チームに分け、野行地区の『生の声』と野行地区についての調査を目的とする

(2) 内容

- ・野行の長所・短所
- ・生活について
- ・お仕事について
- ・野行の設備や制度

以上についてのそれぞれのお宅に訪問しお話を伺った

(3) 得られた情報

- ・村人間の関わりは強い
- ・村営バスが1日3本ある
- ・ソバなら育てた経験がある
- ・回覧板がある

など

3.2 第二回訪問

<改善案説明会議：10月24日午前>

(1) 目的

第一回訪問での不明な点の改善をして、具体的な企画内容と
広報法の説明を目的とする

(2) 内容 [参照…参考資料4、参考資料5、参考資料6]

「のゆき」体験ツアー

広報法「のゆきのこの指とまれ」（略称NKTシステム）

<バーベキューによる親睦会と意見聴取：10月24日午後>

(1) 目的

バーベキューを通して、活性化チームと野行地区の方々の親睦
を深めることと午前に行なった会議についての意見聴取を目的
とする

(2) 得られた情報

- ・大きな病院は浪江、原町、郡山と遠い
- ・近くに診療所ある（週2）
- ・移動販売ある（週1）
- ・田んぼの収入が年間15万くらい

- ・牛を育てて売っている（全体で2件）

- ・牛のエサ作り（空き田んぼを利用）

→他の作物の転用は難しい

- ・35世帯中25世帯が兼業農家

- ・ライスセンターという脱穀から精米までを機械で出来る施設がある

- ・PC講習会あり（お年寄りには欠席しがち）

- ・小学校でPCの授業を習っている

3.3 『かつらお自然の恵み感謝祭』に参加

(1) 目的

葛尾村のイベントに参加することを通して野行地区の良さを確認し更に野行地区の方との親睦を深めることを目的とする

(2) 得られた情報

- ・多くの人を呼び込めるイベントを開催している
- ・葛尾大臣屋敷跡など歴史散策も可能
- ・手作りソバを作る施設ある

3.4 集落活性化県民討論会

(1) 目的 [参照…参考資料7]

今回実施した活動内容、ならびに、ご提案した地域活性化の方法についてご報告させていただき、ご意見を伺うこと、また、本討論会に参加されている、他大学の方々のお話を伺い、来年度開始する企画の試行運用の実施に当って注意すべきこと、うまく進めるノウハウをえること、さらには、今後の活動を進める中で遭遇する問題の解決に当って相談する他大学の仲間をつくることを目的とした。

(2) 内容

- a. 発表したこと
 - ・ 調査概要
 - ・ 企画の考え方
 - ・ 企画案について
 - ・ 今後のスケジュール
- b. 意見交換
- c. 佐藤知事からのご意見

(3) 得られた情報

- ・ 県内で地域活性化のためのイベントを開催されていた
- ・ 女性の団体で何かをやると地域活性化に繋がりやすい

III. 活性化の施策案

1. 「のゆき」体験ツアー

1.1 「野行」体験ツアーの特徴

「野行」体験ツアー（以下、体験ツアー）の特徴は以下の通りとしたい。

- ・野行の生活を体験できる
- ・自然環境の良さを体験できるようにする
- ・野行の歴史を知ることができ
- ・野行の住民の心を知ることができる

1.2 体験ツアーの概要

体験ツアーとして、以下の3つのコースを設置したいと思います。

①登山（ハイキング）コース

自然環境の良さを体験するもので、せせらぎ荘裏の登山

コースを歩き自然を肌で直接体験するコースです。

②農業体験コース

野行の生活を体験するもので、ソバの刈り取り、ソバ打ち、試食までを体験するコースです。大きい畑を設け野菜の栽培・収穫の手伝いを体験できるようにすることも考えたいと思います。

③ 地区探索コース

野行の歴史を知ってもらうもので、野行地区の名所を巡り、地区の伝統について知ってもらうコースです。

④ 共通コース

夏には、蛍の集まる場所への夜間ハイキングコースを設け希望により参加してもらうコースです。

以上、ガイドの案内に従っていろいろ見たり体験したりしていただきながら、ガイドとの対話を通して、野行住民の心も知っていただきたいと思います。さらに、体験ツアー終了後に、体験ツアー参加者全員と野行の方々と一緒にバーベキューを行い、参加者と野行の方々との対話の場を用意して、対話を通して野行「住民の心」を理解していただけるようにしたいと思います。

1.3 実行計画概要

(1) 実施時期

春、夏、秋の季節のよい時に、各コース実施の最適な時期に1回、1拍で行いたいと思います。

(2) 実施規模

各コースともガイド1名で、最大でも2チームに限定して参加者を募りたいともいいます。

1.4 実行計画

(1) 役割分担

a 野行と方々の担当

コースの選択と紹介内容の決定、ガイド、バーベキューの進行、参加予約管理など、体験ツアーの推進。

b 学生の担当

ガイドの支援（例：写真撮影など）、感想の聴取、ホームページの作成など、情報の取得と広報。

2. 「のゆきこの指とまれ」

2.1 「のゆきのこの指止まれシステム」の主要機能

本システム（Noyuki の Konoyubi Tomare システム：略称 NKT システム）は以下の3つの主要機能を装備します。

(1) 農業を楽しむことに興味を持ってくれる住人を募集する機能

① 農業をしてみたい人を誘致するホームページの開設

野行でできること、楽しさ、費用、事例などを掲載する。

② 野行体験ツアーの参加者を募集するホームページの開設

ツイッターを用いた、「こんなことがあるらしいよ」という「ロコミ」を用いた宣伝する。

上記ホームページの開設とともに「農業へのお誘い CM」を作成し、テレビで放映してもらうために、CM コンテストに参加する。

(2) 野行に来たことがある人が再度きたくなるよう誘導する機能

体験ツアーの実施状況の紹介ホームページの開設

① 参加者の感想の紹介、多くの人からの評判の紹介、

以前の企画との違いの紹介、これから行いたい変更計画や注目してほしい事柄の紹介などを行う。

② 参加者が興味を持ったことを記録し、その人向けに、関連する情報をこちら側から送付する。

(3) コミュニティ活性化機能

SNS (Social Networking service) を開設し、新しく野行に移った方々、野行に昔からおられる方々、体験ツアーに参加された方々、昔野行におられた方で今は他の地におられる方々に意見交換をしていただけるようにする。

テーマは、「日本で一番安心して暮らせるところ：野行」を実現するための課題や解決策を中心に取り上げる。

2.2 ホームページについて (仮名：野行とシーベリー)

野行地区に興味を持ってくれた人がいつでも「今の」野行地区を知ることができる様々な情報の発信と、インターネットを活用

した対話を通して「住人の心」をいろいろな人に知ってもらえるようにすることを目的とします。また、運営を円滑にするためにツアー予約などの補助も行います。

2.3 システムの概要のページ構成

①農業をしてみたい人を募集するページ

- ・受け入れ予定人数
- ・野行で作れる農作物の紹介
- ・具体的事例
- ・費用の説明

②体験ツアーの内容説明のページ

- ・各コースの内容説明のページ
- ・ツアーの開催日時

③野行体験ツアーの参加予約ページ

③ 野行地区に興味を持ってくれた人に対する情報配信ページ

- ・ツアー参加者が興味を持った事柄に関連した情報の配信
- ・野行の見どころ情報の配信

④ 野行ブログ

- ・野行の住人の方々が書いた記事を掲載
- ・住人視点での「今の」野行を伝える

⑤ SNS コミュニティ機能

- ・「日本で一番安心して暮らせるところ：野行」をテーマに掲げる
- ・テーマ実現の課題や解決策の意見交換の場とする

2.4 ツイッターを用いた宣伝について

ツイッターとは 140 字以内で自由に投稿し大勢の人と共有するサービスです。このサービスは野行の方々だけではなく、実際に体験した人にも投稿していただき「口コミ」での宣伝を行います。投稿する内容は以下の通りです。

① 野行の方々

- ・コースの見どころ
- ・「今の」野行について

② 体験に来た人たち

- ・感想
- ・野行でやってみたいこと
- ・野行の良さ

※詳細は参考資料 8 に提示

IV. おわりに

今回初めて参加させていただき、右も左もわからないまま地域活性化を目指しました。会議を重ねる度に企画の大枠と方向性の決定や村で活用できる資源と施設が明らかになっていきました。調査を通して野行地区の方々の持つ親しみやすさのお陰で緊張せずに楽しく話し合うことができたと思います。村のお祭りにも参加させていただき私たちは深い信頼関係を築くことができました。また、今後も地域活性化チームの継続の仕方に目途がたち、これから数年をかけてご協力させていただきたいと考えております。いくつかの懸案事項もありますのでそれらも着実に解決していき地域活性化を目指していきたいと思っております。

今後の予定として、平成 23 年度では更に詳細内容を決定し日本大学内の学生に参加してもらい実践に近い状態で試行実験を行います。平成 24 年度から本格運用を目指していきたいと考えています。

V. 謝辞

本調査をするにあたり様々な方にお世話になりました。葛尾村野行地区総務課長の金谷様と野行地区の皆様をはじめ、福島県企画調整部地域づくり総室地域振興課副主査の小林健太郎様、同じく主査の坂井俊文様、本プロジェクトへの参加のチャンスをくださった日本大学工学部研究事務課主任の桑原学様に感謝の念をここに記し御礼の言葉とさせていただきます。

VI. 参考資料

[1]地域活性化のための.ppt

[2]ネットワーク構成図 2007.pptx

[3]葛尾村野行地区活性化プロジェクト概要案.doc

[4]地域活性化企画案概要説明.ppt

[5]葛尾村野行地区活性化プロジェクト企画案[暫定_4].doc

[6]コースの流れの図.doc

[7]プレゼン資料.ppt

[8]地域活性化企画書案（最新）.doc

地域活性化のための 企画案と概要説明

～野行地区活性化計画～

平成22年9月12日

日本大学工学部情報研究会

会長 室井美紀

目次

1. 企画案の目的
2. 企画案の提示
3. 企画案概要説明
4. 協力していただきたいこと
5. 企画から期待される効果
6. 質問

1. 企画案の目的

- 提案の前提

時代の流れ沿って様々な社会資本の整備を進め、住民が**住みやすい環境づくり**に取り組んできました。今後は、身の丈に合った行財政運営を基本に、過疎・少子高齢化への対応や整備された拠点施設と自然、歴史、地域文化などの資源を活かしながら、**交流などによる地域の活性化を進め**、人情あふれる村民の心を大切に「**住んでよかった**」村づくりを進めてまいりたいと思っております。

※葛尾村公式サイト 村長メッセージより抜粋

1. 企画案の目的

- 提案の前提まとめ

① 住みやすい環境づくり

② 過疎・少子高齢化の対応

③ 整備された拠点施設と地域の資源を活用

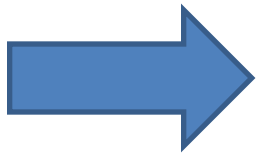
④ 「住んでよかった」村づくり

1. 企画案の目的

- 目的について

①自然と共生して周りの人と力をあわせて
「もの」を育てることの楽しさを共有

②シーベリーを利用し村の訪問客を増やす



訪問客との交流をすることにより
地域の活性化

2. 企画案の提示

① 農業体験の推進

(1) 稲作

(2) シーベリーの収穫とジャムへの加工

② 専用ホームページの開設

3. 企画案概要説明

① 農業体験の推進

当面 : 個人のお客様～団体のお客様
将来的に: 小、中学生を対象

 体験を通して交流を図る

3. 企画案概要説明

②専用ホームページの開設

①の農業体験終了後、成長の記録を確認できるシステムを開発して大学と一緒に運用していきたい。



毎年のリピーター客
新規訪問客の増大
交流を深める

3. 企画案概要説明

ネットワーク構成

別紙 2参照

青色・・・葛尾村が関係しているもの

緑色・・・大学が関係しているもの

3. 企画案概要説明

ホームページ大まかな構想

- 予約の受付
- 体験農業担当者別ページ
 - ① 田んぼを一覧できる写真を掲示する
 - ② 一区切りの田んぼ毎に掲示板を設置し、書き込みを可能にする
- 大きな作業をしたときにTwitter等につぶやく

4. 協力していただきたいこと

必要な人材

- 農業体験を受け入れていただける農家
- 地元の小、中学校の子供たち（林間学校を意識）
- ホームページの運営上担当者

5. 企画から期待される効果

プラスの効果

- 新しい安定した収入源になる
→ ①住みやすい環境
- 地区外の方との交流が増える
→ ②地域の活性化

マイナスの効果

- 毎年の作業が大変になる
- 最初は客数が安定しない

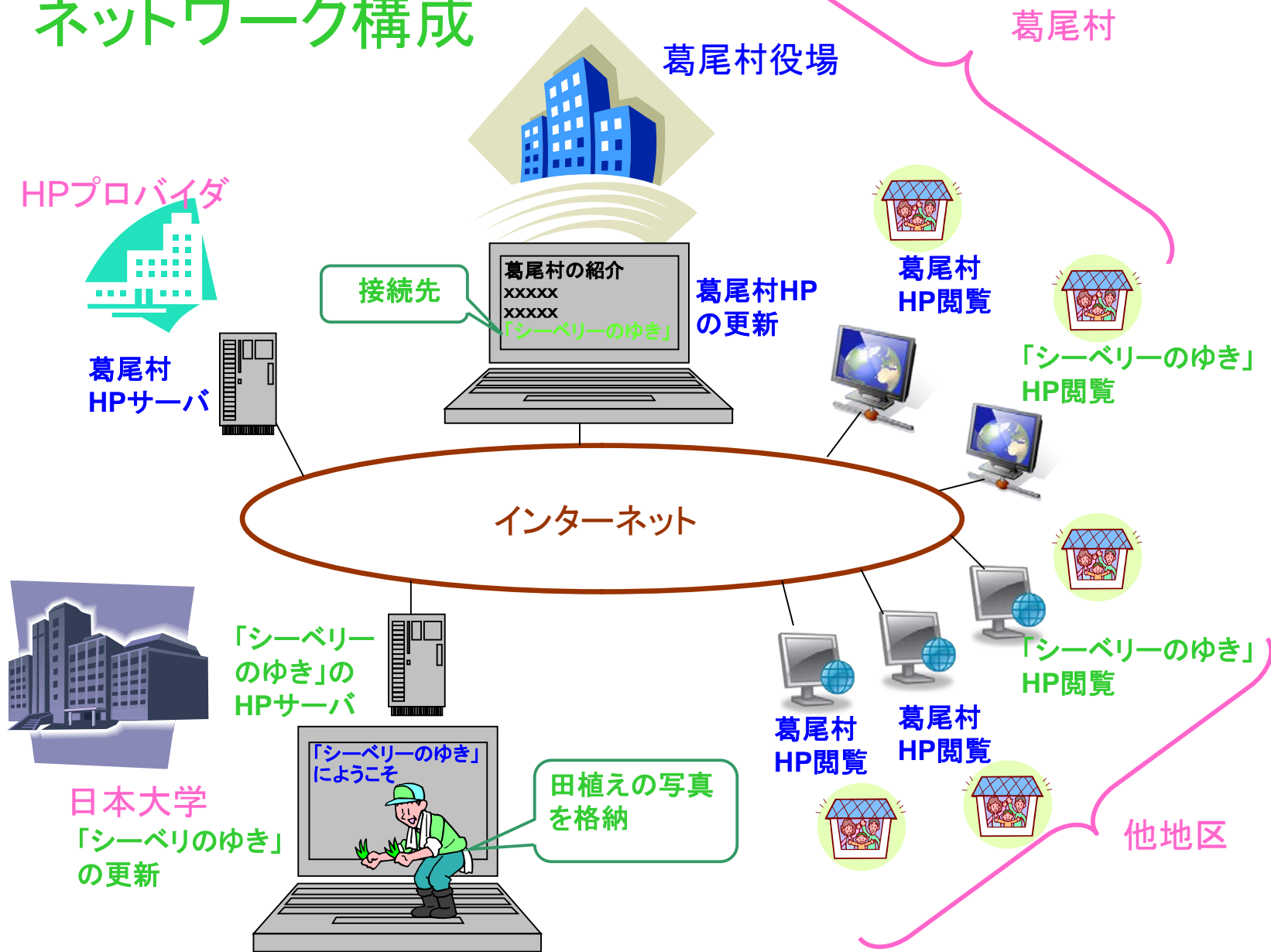
6. 質問

- ここまでの説明での質問など

ご清聴

ありがとうございました。

ネットワーク構成



資料

葛尾村野行地区活性化プロジェクト概要案

1 目的

現在野行地区では外部から訪れる人が少ないのと考えます。葛尾村公式サイトにおいての村長メッセージには「交流などによる地域活性化を進め、人情あふれる村民の心を大切に『住んでよかった』村づくりを進めてまいりたいと思っています。」の一文があります。「交流」という観点には外部の人との交流など多岐にわたる人との交流が含まれていると考えます。そこで、外部から人をたくさん呼び込むことでもたらされる色々な人々との交流を得ることで、この村長のメッセージを実現することを目的とし本プロジェクトを進めていきたいと考えています。

2 プロジェクト概要

1の目的をふまえ、野行地区への家族旅行ツアーを提案

2.1 ツアー内容

一泊二日の日程の下、登山（ハイキング）コース、農業体験コース、および地区探索コースの3つのコースに分かれガイドの案内の下、野行地区特有の名所巡る。コースのスタート地点、および終着地点については、共通の場所とし、その場で外部の人と野行地区の人の交流の場所とすることで多岐にわたる人との交流を実現する。

2.2 コースの概要

2.2.1 登山コース

せせらぎ荘裏の登山コースを歩き自然を肌で直接体感するコース

2.2.2 農業体験コース

ソバの刈り取り体験から実際にソバを打ち試食するまでを体験するコース

2.2.3 地区探索コース

野行地区内の名所を巡り地区の伝統について知るためのコース

2.2.4 共通コース

各コース一日目、蛍の集まる場所への夜間ハイキングコースを設け希望により参加してもらう

2.3 バーベキューの実地

各コースの終了時、もしくはツアー二日目にツアー参加者、および村民参加によるバーベキューを行い直接話す機会を設けることで、より広範囲な交流を実現する。

2.4 広報活動について

主にインターネットを活用することで広範囲な広報活動を行う。

2.4.1 野行地区の擬人化キャラの作成

野行地区を端的に表した擬人化キャラを作成することで話題性を持たせる。

2.4.2 特設サイトの設営

ツアーの予約や野行地区を多くの人に知ってもらうためのホームページを作成する。

村民用のブログも同時に作成する。このブログは村民が交代で更新し定期的に更新されるコンテンツとする。これにより特設サイトを訪れるリピーターを確保する。

2.4.3 ブログや SNS ユーザ協力の下での広報活動

特設サイトをリンクフリーとし野行地区を気に入ってもらった人に自身のブログや所属コミュニティで紹介してもらう。結果的に気に入ってくれる人が多くなるほど比例して広報活動の範囲が広がっていく。

2.4.4 バナーの作成

上記 2.4.3 において野行地区を紹介するにあたりバナーを自身のブログまたはコミュニティに掲載してもらう。このバナーには野行地区の風景や擬人化キャラを使い視覚的に野行地区を気にかけてくれた人がクリック一つで特設サイトにアクセスし野行地区を知ることができるようにする。

2.4.5 ツアーの予約について

各コース、最も見ごろになる役一ヶ月前から予約受け付け開を開始する。
その際、天候などにより見ごろが若干変化することを明記する。

2.4.6 ニュースや新聞などの紹介コーナーを利用した広報活動

ニュースの地元の祭りや活動の紹介コーナーに応募、新聞に記事を投稿
など地元の人々の目に触れる機会を増やすことで身近な人に対しても広報
活動を行う。

3 プロジェクトの CM 作成について

福島県で行われている地区の CM コンテストに応募する。

本来はある程度のコストが必要であるテレビ CM 放映コストを抑えた上で実現
することが可能になる。

4 人員について

現状で必要と思われる最低人数を以下に表記します。

4.1 ツアー

- ・各コースとも案内役に 1 人
- ・スケジュール管理にコース別に 1 人
- ・バーベキューに関してはできる限り多くの地区の人々

4.2 広報活動

- ・特設サイトの運営者に数人（野行地区との連絡員含む）
- ・ツアー予約の管理に数人
- ・ニュースのコーナーへの応募、および新聞への記事提供に 2 人

4.3 プロジェクトの CM 作成

- ・内容の決定、審査、撮影にできる限り多くの人々

平成22年10月24日

参考資料 4

地域活性化企画（案）

～野行地区地域活性化計画～

日本大学工学部情報研究会
会長 室井美紀

1. 調査結果

9月12日に調査をさせていただきました。

「**現在**」の野行の方々には
特に不満は無い

- 村の設備も十分だと考えてる
- 村人みんな仲が良い
- 年金だけでは生活が苦しい
(やり繰りで何とか生活できる)

2. 立案の考え方

調査結果から

村の現状は悪くは無いが飽くまで現状！



将来

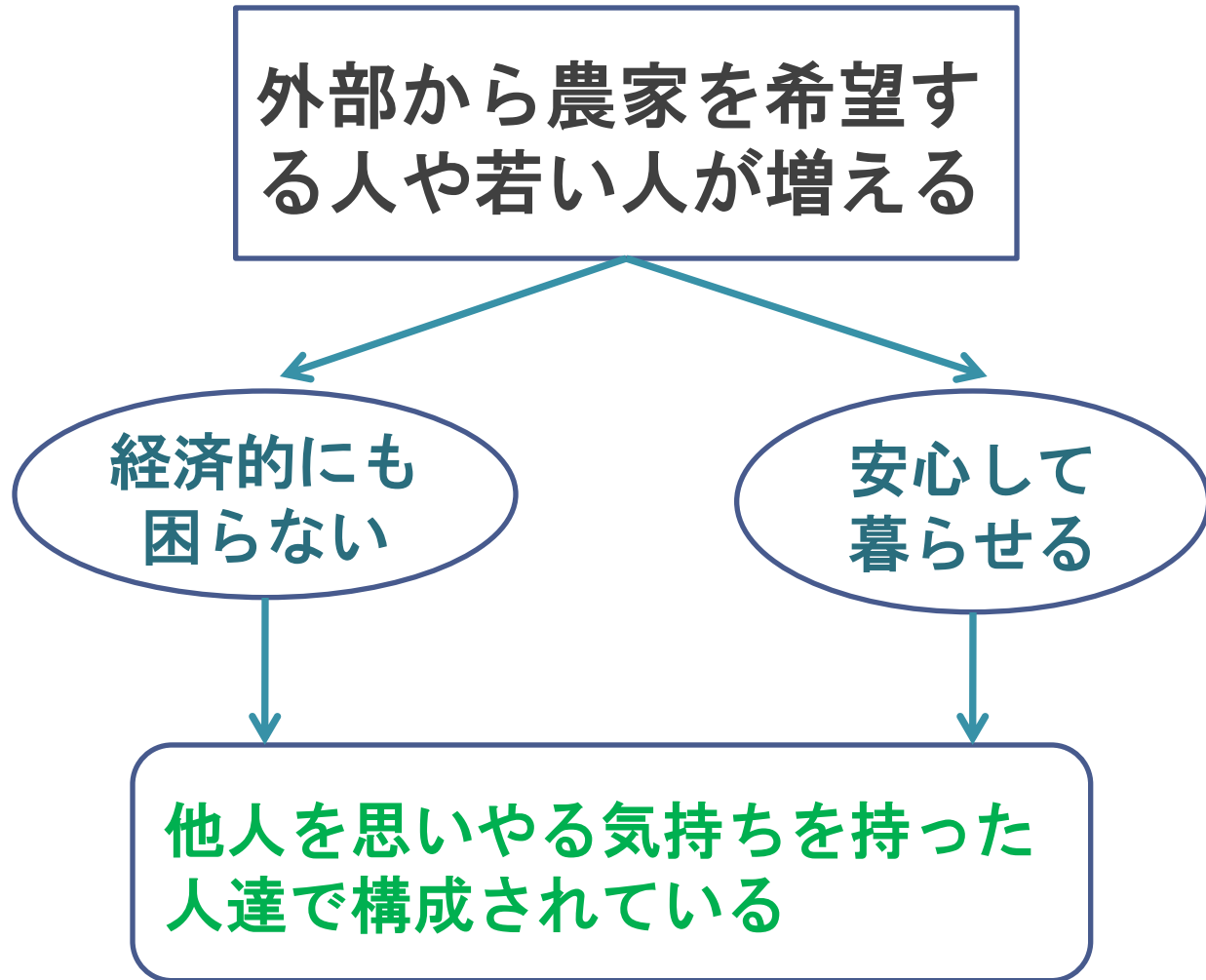
安心に暮らせるか分からない

2. 立案の考え方

村長の考え方

- 過疎・少子化への対応
- 村の資源を活かす
- 交流などによる地域の活性化
- 「人情あふれる住民の心を大切にし、
住んでよかった」と思える村づくり

3. 野行地区の将来像



4. 提案する企画

そこで

- 新企画「のゆき」体験ツアー
- 広報法「のゆきのこの指とまれ（仮）」
(NoyukiのKonoyubi Tomare システム：略称 NKTシステム)

を提案します

5. 企画の内容

5.1 目的

- 体験ツアーを通して野行の良さを知ってもらうこと
- 将来、一緒に野行で生活したいと思っただくこと

5. 企画の内容

5.2 特徴

野行の

- ① 生活を体験できる
- ② 自然環境の良さを体験できるようにする
- ③ 歴史を知ることができる
- ④ 住民の心を知ることができる

5. 企画の内容

5.3 概要

コースは2つ

- 登山（ハイキング）コース
- 地区探索コース

- 農業体験コース（共通）
- 共通コース

5. 企画の内容

5.3 概要

進め方は

- 各コース別にガイドを付けツアーを行う
- 共通コースは時期によって内容を変える
- 実施は1シーズンに1回、1泊とする

5. 企画の内容

5.4 実行に伴う必要な人材

- 野行の方々の担当
コースの選択と紹介内容の決定
ガイド、バーベキューの進行、参加予約管理
…など 体験ツアーの推進
- 大学生側の担当
ガイド支援（写真撮影など）
感想の聴取、ホームページの作成
…など 情報の取得と広報

6. 広報の内容

6.1 目的

- 野行地区で農業を楽しむ新しい住人を集めること
- 本企画を継続して実施できるようにすること

6. 広報の内容

6.2 特徴

- ① 光回線を活用し、大学と一緒に情報技術を用いて「野行の今」を広報する
- ② 野行地区に興味を持ってくれる仲間を増やす
- ③ 相互の対話を活性化する仕組み

6. 広報の内容

6. 3 NKTシステムの機能

- ① 農業を楽しむことに興味を持ってくれる住人を募集する機能
- ② 野行に来たことがある人が再度来たくなるように誘導する機能
- ③ 野行の住民と野行に興味を持ってくれる仲間の対話を増やす機能
(コミュニティ活性化機能)

6. 広報の内容

6.3.1 農業を楽しむことに興味を持ってくれる住人を募集する機能

- ① 農業をしてみたい人を誘致するホームページの開設
- ② 野行の体験ツアーの参加者を募集するホームページの開設
- ③ ツイッターを用いた、「こんなところがあるらしいよ」という「うわさ」の誘導

6. 広報の内容

6.3.1 農業を楽しむことに興味を持ってくれる住人を募集する機能

ホームページを制作する際の必要項目

- ①村の現状やちょっとしたことをブログに掲載
- ②ネットを介して予約をする
- ③実施状況の紹介など
- ④その他、必要ページ

6. 広報の内容

6.3.2 再訪問を誘導する機能

- 実施状況の紹介ホームページの開設
 - ① 参加者の感想などを紹介、これから行いたい計画や注目してほしい事柄などを行う
 - ② 参加者が興味を持ったことを記録し、その人向けに関連する情報をこちらから送付

6. 広報の内容

6.3.3 コミュニティ活性化機能

- SNSを開設し、野行を知っている方々、体験ツアーに参加された方々に意見交換をしていただけるようにする。

テーマは、「日本で一番安心して暮らせるところ：野行」を実現するための課題や解決策を中心に取り上げる。

6. 広報の内容

6.4 実行に伴う必要な人材

- 野行の方々の担当
ホームページ内で掲載する記事の作成
- 大学生側の担当
NKTシステムの構築とホームページ
の制作・運用管理

7. スケジュール

① 企画について

本年度：企画の実行方法の詳細決定

来年度：試行実験（ツアー客は日本工学部の学生）

② 広報について

本年度：ホームページの設計と企画の実行方法の詳細決定

来年度：ホームページの実装と試行運用

③ 本格運用について

どちらも平成24年度からの本格運用を目指す予定

葛尾村野行地区活性化プロジェクト企画提案 ～日本一安心して暮らせるところ：野行を目指して～

日本大学工学部
情報研究会
室井 美紀

1 企画立案の考え方

9月12日、葛尾村役場での野行地区の皆様との意見交換、ならびに、野行地区の9軒のお宅を訪問させていただきお話をお伺いさせていただきました結果を基に本企画を提案させていただきます。

現在の野行地区は、暮らしに不満もなく「暮らしやすい良い」地区であると考えており、今後も現状を維持していきたいと考えております。しかし、この先時間の経過とともに、野行地区在住の人々の年齢が高くなり、安全に安心した暮らしが難しくなることが危惧されます。葛尾村村長は、「交流などによる地域活性化を進め、人情あふれる村民の心を大切に『住んでよかった』村づくりを進めてまいりたいと思っています」と述べられております。従いまして、本企画は、将来、野行にふさわしい外部の人に野行の住民になってもらうことを目的とした交流の仕組みを提案させていただきます。すなわち、野行に企業を興したり企業を誘致したりして職を用意して外部から人を集めるのではなく、村長のメッセージで述べられていますように「人情あふれる住民の心を大切にすることに積極的に賛同する人、すなわち、互いの助け合い、安心できる生活を求める人を集めることに注目した方法（日本一安心して暮らせるところ：野行の実現の方法）を提案したいと思えます。

本企画では、(1)野行地区の「住民の心」と「良さ」とを知ってもらえるようにするための施策（「のゆき」体験ツアー）、ならびに、(2)この企画を長く継続するための施策（情報通信技術を用いた広報：「のゆきのこの指止まれ」）をご提案いたします。

2 野行地区の将来像

野行に集まる新しい仲間は、

- (1) 自分たちのための農業を楽しみたい人々
- (2) 近所の人と行ったり来たりして、安心して生活を送りたい人々
- (3) 新しく自分たちの仲間になりたい人に対して親切に手助けを惜しまない人々

であり、現在の住民と新しく加わった人々が助け合って生活している、「日本一安

心して暮らせるところ」となっています。新しい住民が増えることにより、病院や食料品店などのサービス業の仕事も増え、また、本企画の運用の仕事も増え、住民が担当する仕事の場も増えることが期待できます。

3 「のゆき」体験ツアー

3.1 目的

野行の良さと住民の心を知ってもらい、将来自分たちも一緒に野行で生活したいと思っただけのこと。

3.2 「のゆき」体験ツアーの特徴

§2.1で述べた目的を達成するため、「のゆき」体験ツアー（以下、体験ツアー）の特徴は以下のとおりとしたい。

- (1) 野行の生活を体験できる
- (2) 自然環境の良さを体験できるようにする
- (3) 野行の歴史を知ることができる
- (4) 野行の住民の心を知ることができる

3.3 体験ツアーの概要

体験ツアーとして、3つのコースを設置したいと思います。

- (1) 登山（ハイキング）コース
自然環境の良さを体験するもので、せせらぎ荘裏の登山コースを歩き自然を肌で直接体感するコースです。
- (2) 農業体験コース
野行の生活を体験するもので、ソバの刈り取り、ソバ打ち、試食までを体験するコースです。大きい畑を設け野菜を栽培・収穫の手伝いをする体験できるようにすることも考えたいと思います。
- (3) 地区探索コース
野行の歴史を知ってもらうもので、野行地区内の名所を巡り、地区の伝統について知ってもらうコースです。
- (4) 共通コース
夏には、蛍の集まる場所への夜間ハイキングコースを設け希望により参加してもらうコースです。

ガイドの案内に従っていろいろ見たり体験していただきながら、ガイドとの対話を通して、野行住民の心も知っていただきたいと思っただけのこと。

さらに、体験ツアー終了後に、体験ツアー参加者全員と野行の方々と一緒にバー

ベキューを行い、参加者と野行の方々との対話の場を用意して、対話を通して野行「住民の心」を理解していただけるようにしたいと思います。

3.4 実行計画概要

(1) 実施時期

春、夏、秋の季節のよい時に、各コース実施の最適な時期に1回、1泊まりで行いたいと思います。

(2) 実施規模

各コースともガイド1名で、最大でも2チームの限定して参加者を募りたいと思います。

3.5 実行計画

(1) 役割分担

a. 野行の方々の担当

コースの選択と紹介内容の決定、ガイド、バーベキューの進行、参加予約管理など、体験ツアーの推進。

b. 大学の担当

ガイド支援(例:写真撮影など)、感想の聴取、ホームページの作成など、情報の取得と広報。

(2) スケジュール

a. 本年度:企画の実行方法の詳細決定

b. 来年度:試行実験(ツアー客は学生)

(平成24年度からの本格運用を目指す)

4 のゆきのこの指止まれ

4.1 目的

野行地区で農業を楽しむ新しい住人が継続して増大し、また、本企画を継続して実施できるようにする。

4.2 本企画の特徴

野行地区には光回線が敷設されております。光回線を活用して、大学（日本大学工学部情報研究会）と一緒に、情報技術を用いて「野行の今」を広報して、野行に興味を持ってくれる仲間（コミュニティ）を増やし、かつ、相互の対話を活性化する仕組み（のゆきのこの指止まれシステム）に特徴があります。

4.3 「のゆきのこの指止まれシステム」の主要機能

本システム（Noyuki の Konoyubi Tomare システム：略称 NKT システム）は以下の3つの主要機能を装備します。

- (1) 農業を楽しむことに興味を持ってくれる住人を募集する機能
- (2) 野行に来たことがある人が再度来たくなるように誘導する機能
- (3) 野行の住民と野行に興味を持ってくれる仲間（コミュニティ）の対話を増やす機能（コミュニティ活性化機能）

4.4 機能概要

- (1) 農業を楽しむことに興味を持ってくれる住人を募集する機能

ア. 趣味で農業をしてみたい人を誘致するホームページの開設

野行でできること、楽しさ、費用、事例などを掲載

イ. 野行の体験ツアーの参加者を募集するホームページの開設

ウ. ツイッターを用いた、「こんなところがあるらしいよ」という「うわさ」の操作

上記のホームページの開設とともに、「農業へのお誘い CM」作成し、テレビで放映してもらうため、CM コンテストに参加する。

- (2) 野行に来たことがある人が再度来たくなるように誘導する機能

体験ツアーの実施状況の紹介ホームページの開設

- a. 参加者の感想の紹介、多くの人からの評判の紹介、以前の企画との違いの紹介、これから行いたい変更計画や注目してほしい事柄の紹介などを行う。
- b. 参加者が興味を持ったことを記録し、その人向けに、関連する情報をこちら側から送付する。

(3) コミュニティ活性化機能

SNS を開設し、新しく野行に移った方々、野行に昔からおられる方々、体験ツアーに参加された方々、昔野行におられた方で今は他の地におられる方々に意見交換をしていただけるようにする。

テーマは、「日本で一番安心して暮らせるところ：野行」を実現するための課題や解決策を中心に取る。

4.5 概要

(1) 役割分担

a. 野行の方々の担当

ホームページに掲載する記事の作成

b. 大学の担当

NKTシステムの構築とホームページの作成、および、運用管理

(2) スケジュール

a. 本年度：企画の実行方法の詳細決定とホームページの設計

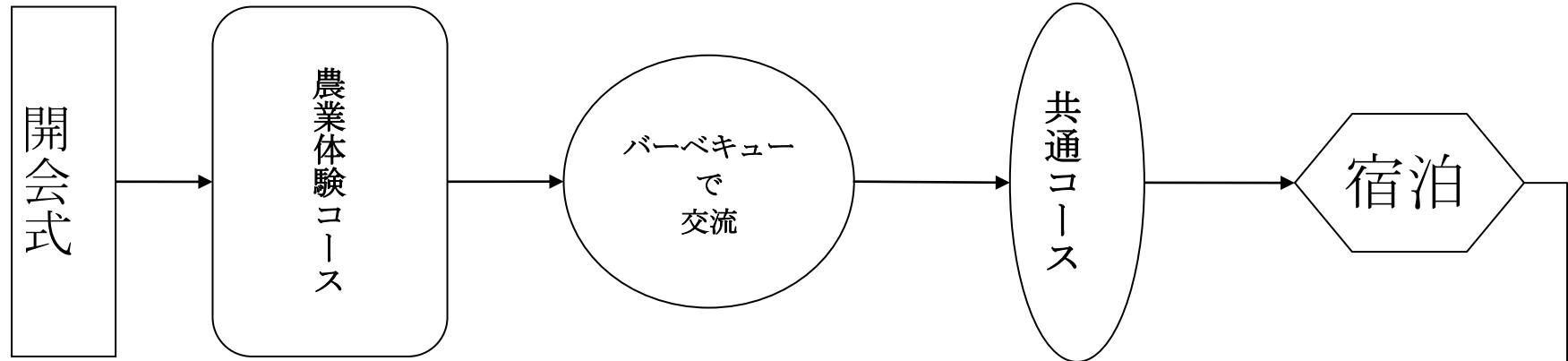
b. 来年度：ホームページの実装と試行運用

(平成24年度からの本格運用を目指す)

以上

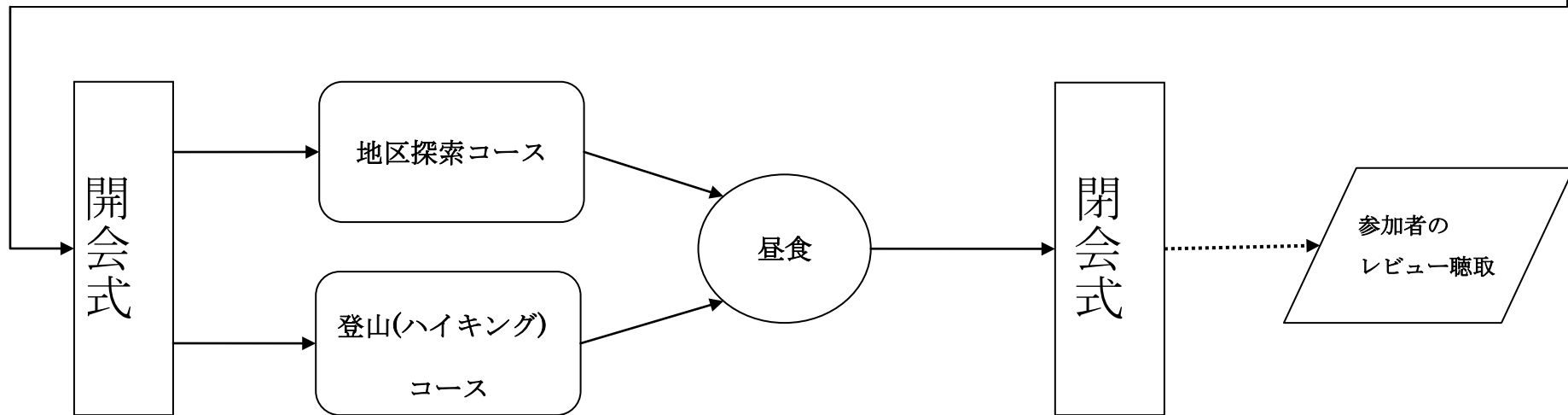
ツアーの基本的な流れ

1 日目



参考 12:30 → 13:00 → 17:30 → 19:30 → 20:00

2 日目



参考 9:00 → 9:10 → 12:00 → 13:00~13:30

平成22年 集落活性化事業

福島県双葉郡野行地区 調査報告

～ふるさとの里 野行地区活性計画～



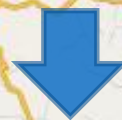
2010年11月19日
日本大学工学部
情報研究会
室井 美紀

村の場所と調査活動

野行地区の場所



葛尾村役場



この近く

日付

目的

内容

(1) 9月12日13日

地区の状況把握

企画案説明と戸別訪問調査

(2) 10月24日

企画の検討

企画の説明と意見聴取

バーベキューでの親睦

(3) 11月3日

地区の状況把握

かつらお自然の恵み感謝祭参加

訪問調査

- 1回目:状況把握のための訪問
1日目の企画案説明風景



訪問調査

～宿泊先 せせらぎ荘～

超軟水の湯につかり、心身ともにリフレッシュ！



訪問調査

2日目の聴き取り調査風景

自然があり
空気が
綺麗!?

村の自慢
は?

普段の生活で
困っていること
は?

交通の道路が
不便・・・だけど
交通事故は0!?

NHKがそばの
花を撮影!

村のみんなは
仲良しで協力
し合っている

私たちの訪問を温かく迎えてくれました



訪問調査

2回目:企画検討のための訪問

企画案説明風景



～企画案を地域の皆さんに発表しました～



訪問調査

バーベキューで交流風景

挨拶から始まりおいしい食べ物と
えごまのおはぎを頂きました！



エゴマのおはぎ
サイコー > ¥ <
美味しかったです！

訪問調査



バーベキューで交流風景

子供たちとも仲良くなり!?
最後にはビンゴ大会!

とても楽しくできました。

訪問調査

3回目：村民との交流のための訪問

会場内の風景



訪問調査



蕎麦販売のお手伝い

この大きな鍋で茹でる
お手伝いをしました

村の概要

村の良いところ

- 連帯感抜群！
 - 公共施設の充実
 - どこかやさしい自然
- ...等々

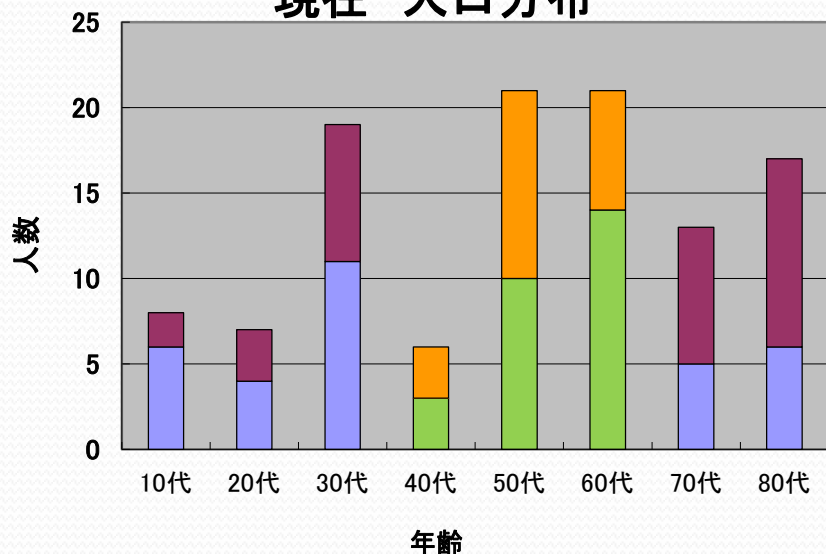
村の心配なところ

- 地域を支える次の世代が少ない
 - お年寄りには物の購入が不自由
 - 総合病院までの距離が遠い
- ...等々

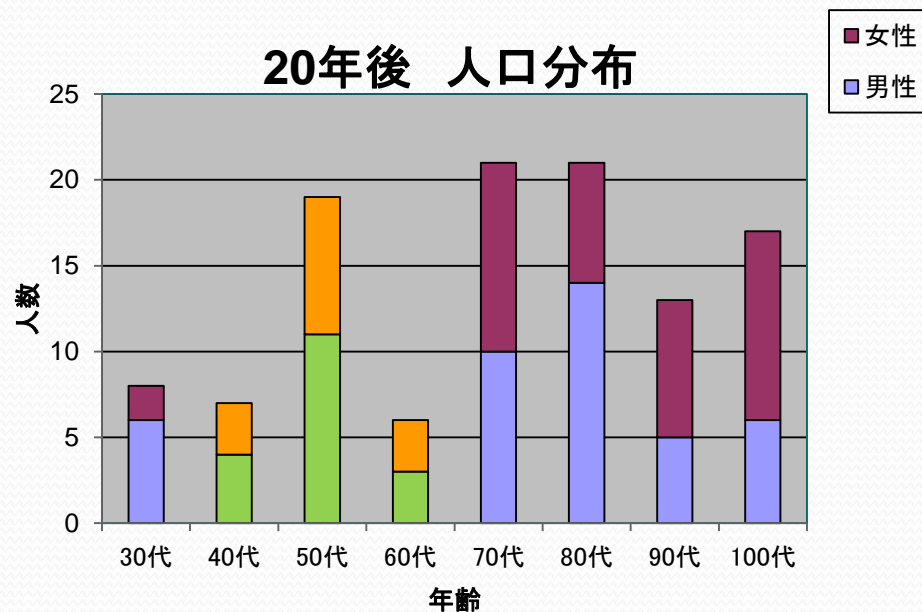
村の概要

● 野行地区 人口分布

現在 人口分布



20年後 人口分布



20年後の変化

年代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100代
人数	8	7	19	6	21	21	13	17

地域を支える世代は32人！

村の概要

村全体の村づくりの目標

(村長の考え)

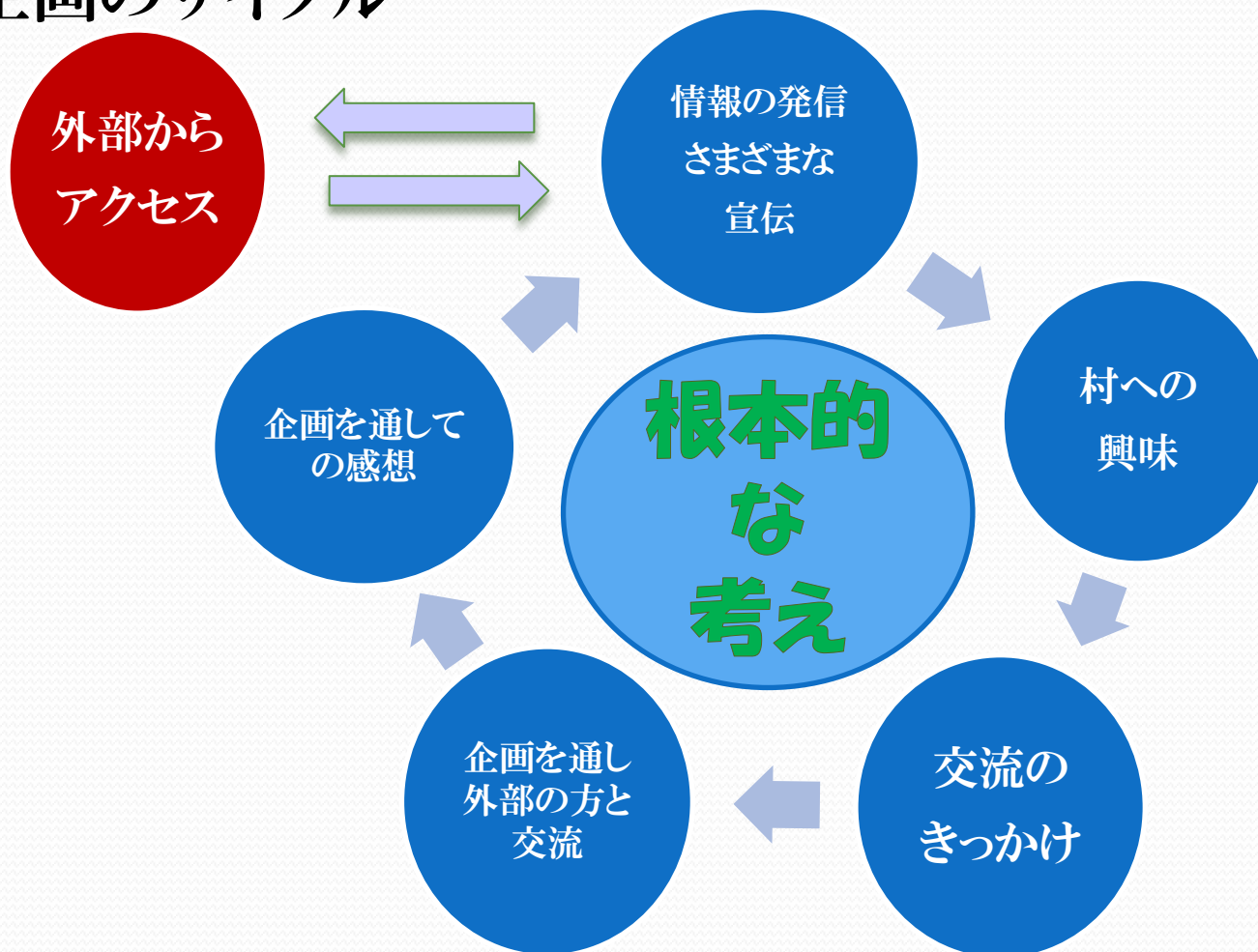
- 過疎・少子化への対応
- 村の資源を活かす
- 交流などによる地域の活性化
- 「人情あふれる住民の心を大切にし、住んでよかった」と思える村づくり

企画の考え方

- 村長が考える村づくりを根底に企画を立ち上げる
- 野行地区の「心」に合った住民を集めて地区の活性化を図る
- 地区の方と学生が協力して継続的に進める
- 学生の情報技術と地域の施設を活かした企画である

企画の考え方

- 企画のサイクル



企画の考え方

- 企画のサイクル

交流の
きっかけ

企画を通
し外部の
方と交流

企画を
通しての
感想



お互いを
理解！

この3つを[野行地区]の方の担当

□ 企画名:「のゆき」体験ツアー

外部の方との交流、そしてお互いを知り合う機会

企画の考え方

- 企画のサイクル



この2つを学生の担当

□ 広報法：「のゆきのこの指とまれ」

(**N**oyuki no **K**onoyubi **T**omareシステム 略称)：**NKT**システム)

広報による呼び込みとサービス向上のシステム

企画概要

- 企画内容

体験ツアー(1泊2日)

- ツアーガイドは地元の方
- 共通で農業体験と[登山、地区探索] 2コースのどちらか
- バーベキューでツアー参加者と地域住民との交流
(お互いを知る)

企画概要

企画について

- 広報法内容

NKTシステム

- 農業に興味がある・農家になりたい人を募集する
- 野行を既に来たことがある人が再度来たくなるようにする
- 野行住民と野行に興味を持ってくれる仲間の対話の補助

具体策として

ブログの定期更新、イベント計画や注目してほしい事柄
SNSを使用したコミュニケーション...等々

企画概要

今後のスケジュール予定

22年度：企画の実行方法の詳細決定

23年度：試行実験（ツアー客は日大工学部の学生）

24年度：本格運用・実地を目指す

最後に

- 調査を通して野行地区の方と「**心**」を通わせることができ、イベント毎に参加するにつれ益々親睦を深められ、ここに多くの方が訪れてくだされば、大変多くの方が**良い交流**を実現できると確信しました。

まだまだ我々には課題がたくさんありますが、野行地区の方と今後もより一層親睦を深め本音で話し合っていき、より良い野行地区の「**理想の将来**」になるように一緒に努力していきたいです。



皆さま、ご清聴

ありがとうございました。

葛尾村野行地区活性化プロジェクト企画提案

～日本一安心して暮らせるところ：野行を目指して～

日本大学工学部
情報研究会
室井 美紀

1. 企画立案の考え方

9月12日、葛尾村役場での野行地区の皆様との意見交換、ならびに、野行地区の9件のお宅を訪問させていただきお話をお伺いさせていただきました結果を基に本企画を提案させていただきます。

現在の野行地区は、暮らしに不満もなく「暮らしやすい良い」地区であると考えており、今後も現状を維持していきたいと考えております。しかし、この先時間の経過とともに、野行地区在住の人々の年齢が高くなり、安全に暮らしが難しくなることが危惧されます。葛尾村村長は、「交流などによる地域活性化を進め、人情あふれる住民の心を大切に『住んでよかった』村づくりを進めてまいりたいと思っています」と述べられております。従いまして、本企画は、将来、野行にふさわしい外部の人に野行の住民になってもらうことを目的とした交流の仕組みを提案させていただきます。すなわち、野行に企業を興したり企業を勧誘したりして職を用意して外部から人を集めるのではなく、村長のメッセージで述べられていますように「人情あふれる住民の心を大切にすることに積極的に賛成する人、すなわち、互いの助け合い、安心できる生活を求める人を集めることに注目した方法（日本一安心して暮らせるところ：野行の実現の方法）」を提案したいと思います。

本企画では、(1)野行地区の「住民の心」と「良さ」とを知ってもらえるようにするための施策（「のゆき」体験ツアー）、ならびに、(2)この企画を長く継続するための施策（情報通信技術を用いた広報：「のゆきこの指とまれ」）をご提案いたします。

2. 野行地区の将来像

野行に集まる新しい仲間は、

- (1) 自分たちのための農業を楽しみたい人々
 - (2) 近所の人と行ったり来たりして、安心して生活を送りたい人々
 - (3) 新しく自分たちの仲間になりたい人に対して親切に手助けを惜しまない人々
- であり、現在の住民と新しく加わった人々が助け合って生活している、「日本一安心して暮らせるところ」となっています。新しい住民が増えることにより、病院や食料品店などのサービス業の仕事も増え、また、本企画の運営の仕事も増え、住民が担当する仕事の場も増えることが期待できます。

3 「野行」体験ツアー

3.1 目的

野行の良さと住民の心を知ってもらい、将来自分たちも一緒に野行で生活したいと思っていただくこと。

3.2 「野行」体験ツアーの特徴

§3.1 で述べた目的を達成するため、「野行」体験ツアー（以下、体験ツアー）の特徴は以下の通りとしたい。

- (1) 野行の生活を体験できる
- (2) 自然環境の良さを体験できるようにする
- (3) 野行の歴史を知ることができる
- (4) 野行の住民の心を知ることができる

3.3 体験ツアーの概要

体験ツアーとして、以下の3つのコースを設置したいと思います。

- (1) 登山（ハイキング）コース

自然環境の良さを体験するもので、せせらぎ荘裏の登山コースを歩き自然を肌で直接体験するコースです。

- (2) 農業体験コース

野行の生活を体験するもので、ソバの刈り取り、ソバ打ち、試食までを体験するコースです。大きい畑を設け野菜の栽培・収穫の手伝いを体験できるようにすることも考えたいと思います。

(3) 地区探索コース

野行の歴史を知ってもらうもので、野行地区の名所を巡り、地区の伝統について知ってもらうコースです。

(4) 共通コース

夏には、蛍の集まる場所への夜間ハイキングコースを設け希望により参加してもらうコースです。

ガイドの案内に従っていろいろ見たり体験したりしていただきながら、ガイドとの対話を通して、野行住民の心も知っていただきたいと思います。

さらに、体験ツアー終了後に、体験ツアー参加者全員と野行の方々と一緒にバーベキューを行い、参加者と野行の方々の対話の場を用意して、対話を通して野行「住民の心」を理解していただけるようにしたいと思います。

3.4 実行計画概要

(5) 実施時期

春、夏、秋の季節のよい時に、各コース実施の最適な時期に1回、1拍で行いたいと思います。

(6) 実施規模

各コースともガイド1名で、最大でも2チームに限定して参加者を募りたいともいいます。

3.5 実行計画(詳細は後日になります)

(1) 役割分担

a 野行と方々の担当

コースの選択と紹介内容の決定、ガイド、バーベキューの進行、参加予約管理など、体験ツアーの推進。

b 大学の担当

ガイドの支援(例:写真撮影など)、感想の聴取、ホームページの作成など、情報の取得と広報。

(2) スケジュール

a 本年度:企画の実行方法の詳細決定

b 来年度:施行実験(ツアー客は日本大学工学部の学生)

(平成24年度からの本格運用を目指す)

4 のゆきこの指とまれ

4.1 目的

野行地区で農業を楽しむ新しい住人が継続して増大し、また、本企画を継続して実施できるようにする。

4.2 本企画の特徴

野行地区には光回線が敷設されております。光回線を活用して、大学（日本大学工学部情報研究会）と一緒に、情報技術を用いて「野行の今」を広報して、野行に興味を持ってくれる仲間（コミュニティ）を増やし、かつ、相互の対話を活性化する仕組み（のゆきのこの指とまれシステム）に特徴があります。

4.3 「のゆきのこの指とまれシステム」の主要機能

本システム(NoyukiのKonoyubi Tomare システム:略称NKTシステム)は以下の3つの主要機能を装備します。

- (1) 農業を楽しむことに興味を持ってくれる住人を募集する機能
 - a 農業をしてみたい人を誘致するホームページの開設
野行でできること、楽しさ、費用、事例などを掲載
 - b 野行体験ツアーの参加者を募集するホームページの開設
 - c ツイッターを用いた、「こんなことがあるらしいよ」という「ロコミ」を用いた宣伝
上記ホームページの開設とともに、「農業へのお誘いCM」を作成し、テレビで放映してもらうために、CMコンテストに参加する。
- (2) 野行に来たことがある人が再度きたくなるように誘導する機能
体験ツアーの実施状況の紹介ホームページの開設
 - a 参加者の感想の紹介、多くの人からの評判の紹介、以前の企画との違いの紹介、これから行いたい変更計画や注目してほしい事柄の紹介などを行う
 - b 参加者が興味を持ったことを記録し、その人向けに、関連する情報をこちら側から送付する。
- (3) コミュニティ活性化機能
SNSを開設し、新しく野行に移った方々、野行に昔からおられる方々、体験ツアーに参加された方々、昔野行におられた方で今は他の地におられる方々に意見交換をしていただけるようにする。
テーマは、「日本で一番安心して暮らせるところ：野行」を実現するための課題や解決策を中心に取り上げる。

4.4 ホームページについて（仮名：野行とシーベリー）

野行地区に興味を持ってくれた人がいつでも「今の」野行地区を知ることができる様々な情報の発信と、インターネットを活用した対話を通して「住人の心」をいろいろな人に知ってもらえるようにすることを目的とします。また、運営を円滑にするためにツアー予約などの補助も行います。

4.5 システムの概要

- (1) 農業をしてみたい人を募集するページ
 - a 受け入れ予定人数
 - b 野行で作れる農作物の紹介
 - c 具体的事例
 - d 費用の説明
- (2) 体験ツアーの内容説明のページ
 - a 各コースの内容説明のページ
 - b ツアーの開催日時
- (3) 野行体験ツアーの参加予約ページ
- (4) 野行地区に興味を持ってくれた人に対する情報配信ページ
 - a ツアー参加者が興味を持った事柄に関連した情報の配信
 - b 野行の見どころ情報の配信
- (5) 野行ブログ
 - a 野行の住人の方々が書いた記事を掲載
 - b 住人視点での「今の」野行を伝える
- (6) SNS コミュニティ機能
 - a 「日本で一番安心して暮らせるところ：野行」をテーマに掲げる
 - b テーマ実現の課題や解決策の意見交換の場とする

4.6 ツイッターを用いた宣伝について

ツイッターとは 140 字以内で自由に投稿し大勢の人と共有するサービスです。このサービスは野行の方々だけではなく、実際に体験した人にも投稿していただき「口コミ」での宣伝を行います。投稿する内容は以下の通りです。

- (1) 野行の方々
 - a コースの見どころ
 - b 「今の」野行について
- (2) 体験に来た人たち
 - a 感想
 - b 野行でやってみたいこと
 - c 野行の良さ

4.7 実行計画（詳細は後日になります）

- (1) 役割分担
 - a 野行の方々の担当
ホームページに掲載する記事の作成
 - b 大学の担当
NKT システムの構築とホームページの作成、および、運用管理
- (2) スケジュール
 - a 本年度：企画の実行方法の詳細決定とホームページの設計
 - b 来年度：ホームページの実装と試行運用
(平成 24 年度からの本格運用を目指す)